

# 情報検索時代の事例研究 (その1) —アインシュタインと三宅速両博士の友情訪問記—

藤野清次<sup>†1</sup> 秀村選三<sup>†2</sup>

大量の情報、言い換えると大量のゴミ、の中から検索で、自分が欲しい有用な情報を探す時代がやってきた。そこで、ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタイン博士と日本訪問途中の船の上で博士の病気を治した九州大学医学部教授三宅速(はやり)博士との友情にまつわる記録を情報検索で調査し新事実がわかったので報告する。

## Case study at the age of Information Retrieval (no.1) — A friendship between Drs. A. Einstein & H. Miyake —

SEIJI FUJINO <sup>†1</sup> and SENZO HIDEMURA <sup>†2</sup>

A time of information retrieval has come around us. Then we are demanded to select useful material from a variety of information, namely, a lot of garbages. In 1922, Dr. A. Einstein came to Japan by ship for his lecture. During long trip by ship, medical Dr. H. Miyake consulted with him, and Einstein recovered completely. After that, they had a friendship together. When the ship departed from Hong Kong, a big news came to him. That is, it is decided that he received Nobel prize in Physics. When the ship arrived at Kobe harbor, he received a warm welcome. He travelled and stayed during 43 days in Japan. In this article, we report a new fact on their friendship derived from information retrieval with Google search engine.

### 1. はじめに

情報検索時代の事例研究の一つの事例をご紹介します。ある一通のメール:「最

<sup>†1</sup>九州大学情報基盤研究開発センター Research Institute for Information Technology, Kyushu University

<sup>†2</sup>九州大学名誉教授 Professor emeritus, Kyushu University

表 1 情報検索の一例「新しい東京駅の天井(上)のレリーフの謎」

検索キー	キー数	ヒット件数	結果状況
1 「東京駅 天井 白い鳩」	3	41,200 件	4 番目で「白い鷺だった!」鹿島建設 7 番目で「稲穂を持つ鷺」由来
2 「東京駅 白い鳩」	2	233,000 件	多数
3 「東京駅 天井」	2	1,520,000 件	6 件目 鹿島建設
4 「東京駅天井鷺」	1	118,000 件	1 件目 鹿島建設

近、東京駅丸の内駅舎の保存・復原工事が終わり\*1多くの通勤客や旅行者の目を楽しませて  
います。新装なった東京駅丸の内駅舎の天上には白い鳩が飛んでいます。」というメールが  
ある知人から来ました。

そのとき、ふとした小さな疑問が湧いてきました。そこで、このように少ない情報だけで  
すが、早速真実を検索(2013年6月5日時点)で調べてみました。表1に入力順の4の検  
索キーとその結果を示します。最初に入力した検索キーで疑問はほとんど氷解しました。実  
は「白い鳩」ではなく「白い鷺(わし)」でした。その後、検索キーをいろいろ変えてみまし  
た。その結果、ヒット件数は逆に急激に増えました。番号4は「鷺」というキーも検索キー  
の中に含めましたが、ヒット件数は10万件を超えました。その先頭のサイトに今回最も役  
に立った「鹿島建設」のサイトが出てきました。

情報検索なかなか難しいものです。少ない経験ですが強いて個人的感想を書く以下の方  
ようになります。

「検索キーの個数は複数(2~3個)かつヒットした最初の10~20件(1~2ページ目に載っ  
ているサイト数)までで自分が知りたい情報がどこまで入手できたか」がこのまま同じ検索  
キーのまま検索するかどうかの判断基準かもしれません。そのページまでに適切な回答が  
得られなければ、2ページ以降の検索は時間だけとられて有用な情報が得られないことが経  
験上多いようです。

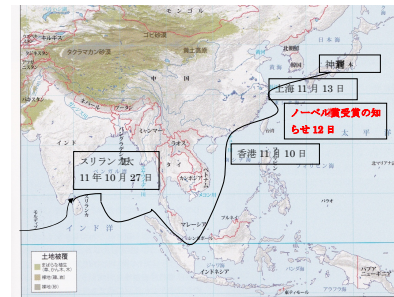
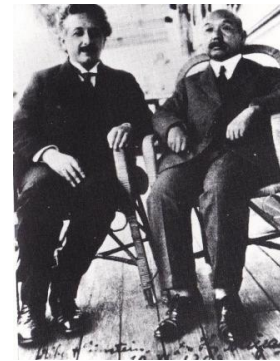
### 2. アインシュタインの福岡訪問

アインシュタイン博士の福岡訪問の様子を1922年12月26日付の福岡日日新聞の記事で

\*1文化財(建造物)の分野で、失われた建物を当時のように再現することを「復元」、改修等で形が変わっていたも  
のを当初の姿に戻すことを「復原」(あるいは推測に基づく場合は復元、旧部材や文献等が残っており根拠が確かな  
場合を復原)と使い分けられることがある。(吉野ヶ里の住居は復元、東京駅は復原)



図1 新しい東京駅の天井のレリーフの謎



(a) 北野丸船上にて (b) ノーベル賞受賞の知らせ (11月13日上海着, 12日受賞の知らせ)

紹介します。図2に日本郵船北野丸（マルセイユ丸）船上のアインシュタイン、三宅両博士およびノーベル物理学賞受賞の知らせ（香港と上海の間）の写真を示します。

図2 榛名丸船上のアインシュタイン、三宅博士とノーベル物理学賞受賞の知らせ

#### —— アインシュタイン博士来福 ——

「来福したアインシュタイン博士は、24日夜、栄屋旅館の3階の上大広間にお泊りになりました。日本滞在中に初めて日本旅館にお泊りになられたこととなります。そして翌25日朝、ご希望の和風の朝食を食されました。その後、しばし休憩された後、桑木九大教授、稲垣改造社員等と、自動車にて博多駅に、前夜門司三井倶楽部に宿泊のエルザ夫人を出迎えに出発されました。午前11時、茶のヴェールに茶の服を着たエルザ夫人が、ドイツ生まれの年若き稲垣夫人等と共に博多駅に到着されました。プラットフォームには、真野九大総長と同夫人、三宅教授と同夫人等の挨拶に対して、明るくにこやかに握手され、今回の訪問に対して感謝の言葉を述べられました。そして、色あざやかな花籠が三宅教授の令嬢富士子様からエルザ夫人に贈呈されました。その後、アインシュタイン博士、三宅、桑木両教授等の一行は、合計3台の自動車に乗車し、栄屋に一旦戻られました。そして、アインシュタイン博士夫妻は、午後1時からの九州帝大の医学部図書館での歓迎会に出席されました。」

#### —— アインシュタイン博士来福その2 ——

「栄屋の客間では、床の間の土佐派の三幅対欄間に、飾られた東郷平八郎大将の雄筆（ゆうひつ）や富田溪仙画伯の嵐山など数点の大額をご覧になって日本建築の神髄に触れられたご様子で、「今回の日本の旅行は、淡い夢のように感じられるが、日本旅館の客間はあたかも詩の国に入ったようだ」と感想を述べられました。そして、色紙にペンを走らせて、「自然は壊れやすい神様だ」と詩の一句を書かれ桑木教授に記念に送られました。アインシュタイン博士の福岡講演もご自身も非常に満足の出来だったようです。エルザ夫人の福岡訪問は、船旅中にお世話になった謝礼を述べるため、午後4時過ぎ大名町の三宅教授宅を訪ねられました。そのとき、三宅医学部教授に博士は指先にできた小さな傷を診察してもらいました。また、福岡日日新聞からは、博士夫妻に対して、博多中西工場特製の博多織女帯が贈られ、物理学会からは元禄姿の男女2個の博多人形が贈られました。夫妻は福岡の由緒ある名物を頂いたと、大変喜ばれました。」

三宅邸をアインシュタイン夫妻が訪問されたとき、博士の希望で、三宅家の家族以外は立ち入りが許されませんでした。そのため、記念写真はまったく、会話の内容などもほとんど残っていません。そもそも、三宅邸がどこにあったのかもわかっていません。



の弟の大野昌次郎（大叔父）さんと一人娘（母の従妹）の大野綾さんまでです。」で始まる記事でした。次に、検索キーを「神谷杖治」とすると、約 59,000 件（前述同時点）もヒットしました。そして、神谷杖治氏は元熊本大学の物理学放射線物理学講座の先生だったことがわかりました。ちょうど 2011 年の 3 月に起こった「東日本大震災」の後で、たくさんの情報を発信されていました。また、「みらくまネット」の共同代表も務めておられました。ちなみに、検索キーを「みらくまねっと 神谷杖治」とすると、約 365,000 件もヒットしてしまいました。もう一度、「神谷杖治」と入れ直し、ヒットした情報を一通ずつ見ていくと、「未来のいのちと暮らしを考えるネットワーク・熊本」の代表の神谷杖治氏の連絡先がようやくわかりました。早速、電話を掛けて事情を説明し、いろいろなことを教えて頂きました。さらに翌日、メールでも詳しい情報提供をして頂きました<sup>9)</sup>。その結果、「大野家は三宅速先生の屋敷の次の持ち主ではないようだ」という結論に落ち着きました。

ただ、神谷杖治氏からのメールの中に、「秀村得一氏のご息選三氏がいまご健在である」という有力情報が丁寧に記されており、有難いことに連絡先も書いてありました。そして、福岡市内の秀村選三氏のご自宅に電話を掛け、「秀村家が三宅速先生の屋敷の次の持ち主である」ということが判明しました。

早速、「秀村選三」という検索キーを入力すると、約 597,000 件（前述同時点）もヒットしました。そして秀村選三氏は九州大学名誉教授（経済学部）であることがわかりました。また、アインシュタインが福岡に来た大正 11 年 12 月 10 日生まれの 90 歳で、「幕末期薩摩藩の農業と社会 一大隅国高山郷土守屋家をめぐって」の研究業績に対して日本学士院賞恩賜賞<sup>20)</sup>を 2007 年に受賞された大先生でもありました。

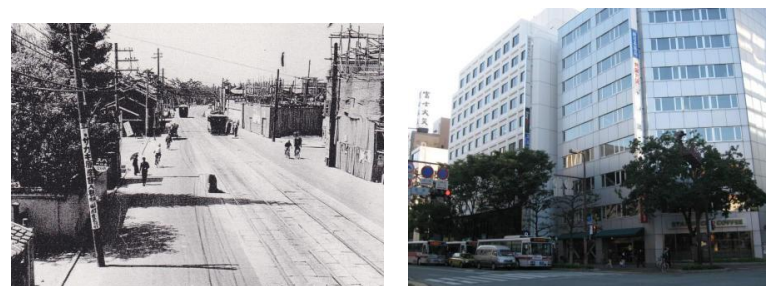
その後、直接お会いして、赤坂交差点の写真をお見せすると、「左の背の高い木はオスの銀杏の木で、これが我が家の目印だ」と言われました。昭和 4 年に三宅先生が定年で退官そして関西に引っ越された後、秀村選三先生の父上得一氏と母上春さんが屋敷を購入されたこと、裏庭には当時珍しかった温室があったが裏庭だけは造り変え、表の庭はそのまま使用したこと、さらに建物もそのまま使用したこと、などを話されました。この事実は、アインシュタインが訪問された当時の三宅速先生の当時のお家の有様を知る上では非常に重要なことでした。また、兄の範一氏（福岡銀行元重役）と欣二氏（東京大学名誉教授、西洋史<sup>12)</sup>）そして姉（萩野）さんと一緒に屋敷の中の大きな木に登ったりして遊んだことを懐かしそうにお話されました。さらに、昭和 18 年までその家に住んでいたが、京都大学のとき学徒出陣で海軍に入ったこと、昭和 20 年 6 月福岡空襲の報を聞いて実家に戻ってきたが、辺りは一面の焼け野原だった、ことも話されました。

さらに、家の見取り図を描いて欲しいのですが、とお願いすると、「いま書いている論文がちょうど最終段階なので、少し待ってくれ」と言われ、90 歳現役の研究者であることを知り驚きました。以下の文献の記述<sup>10)</sup>もその通りだと教えてくれました。

—— 文献「アインシュタイン・ショック」<sup>13)</sup> より ——

「三宅の邸宅は、玄関を入るとすぐ書斎・客間などがあり、それは中央の池を掘った 4、5 坪の庭を挟んで、向こう側の純日本式の十畳の離れとともにコの字型になっている。」

図 4 に戦前の赤坂交差点付近と現在の福岡市中央区赤坂交差点付近の写真を示します。図 4(a) は福岡市制 120 周年の記念展の資料「福岡近代絵巻」<sup>3)</sup>に掲載されていました。道路の手前に市内電車の電停そして向こう側の電停には電車が停まっているのがわかります。



(a) 戦前の赤坂交差点電停付近

(b) 現在の赤坂交差点付近

図 4 戦前の赤坂交差点付近と現在の福岡市中央区赤坂交差点付近

図 5(左) に福岡市中央区赤坂交差点付近 (Google map より転載) に示します。図 5(右) に聞き取りをして図面にまとめた秀村 (旧三宅) 邸の見取り図を示します。大変広いお屋敷だったことがわかります。秀村先生は屋敷内の細かいところまでよく記憶されておられました。図 6 は赤坂交差点付近からの秀村邸の写真です。写真左側に電車と高い銀杏の木、右側に人力車が走っています。正面の建物は久保田鉄工と「高山し (志) ちや (質屋)」の看板ですが、右奥には秀村邸の裏門が見えます。

図 7 に秀村得一氏のご家族 (左) と表玄関道に立つ秀村選三氏 (右) の写真を示します。ご



図5 (左) 福岡市中央区赤坂交差点付近 (Google map より転載) と (右) 見取り図



図6 赤坂交差点付近からの秀村邸



図7 秀村得一氏のご家族 (左) と表玄関道に立つ秀村選三氏 (右)

家族の写真の右側に離れ 10 畳間とその縁側そして奥にお母さんの和室 8 畳間が写っています。(当日他の資料も発表予定)

秀村先生がおもしろいエピソードを聞かせてくれました。九大経済学部長時代、三宅速先生のご令息博氏 (医学部教授) と大学の最高意思決定機関である評議会ですらいつも会われていたそうです。あのとき、「実は、三宅速先生のお屋敷に引っ越したのは秀村家です」とちょっと話を切り出しておけば、屋敷の話や同じ所で遊んだことなどで大いにその場が盛り上がったろうな、と残念そうになつかしく話されました。

#### 4. ある旧制五高生の飛び入り参加の記念写真

1922年 12月 25日午前 11時にエルザ夫人と稲垣夫人を博多駅に車で迎えに行き、一旦栄屋旅館に立ち寄り、暫し小休止をとった後、午後 1時から九大医学部図書館で行われた歓迎食事会に出席されました。歓迎会場には医学部学生が総力を結集した展示の数々が博士を待ち構えていました。博士は九大教授の方々と握手しすぎて手が痛かったそうです。最後に、工学部理科教室前に来て記念撮影がありました。図8にアインシュタイン九大訪問のときの記念写真と旧制五高記念館の建物の写真を示します。

一つおもしろいエピソードをご紹介します<sup>21)</sup>。その記念撮影した中に実は当時旧制の五高生 (熊本市) で講演を聞きに来ていた菅野寅夫氏 (写真後列左から 2 人目) が実は混じっていました。その前日、アインシュタイン博士と福岡市の丸善<sup>\*1</sup>で桑木教授の紹介で偶然博

\*1 丸善本店 1894(明治 27) 年 5 月設立, 福岡出張所 1911(明治 44) 年 7 月設立

6 情報検索時代の事例研究 (その1) -アインシュタインと三宅速両博士の友情訪問記-

士と握手する幸運に恵まれたそうです。「大きな手が温かかった」と語っておられます。菅野氏は東大数学科を卒業され五高の数学の教授になられました。そして、図9に示すように、旧制五高生菅野寅夫氏が記念写真に参加されたエピソードと写真などが五高記念館に展示されています。

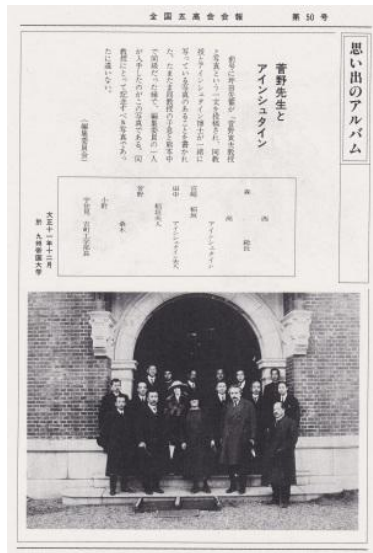


図8 アインシュタイン九大訪問 (菅野氏は後列左から2人め) と旧制五高記念館

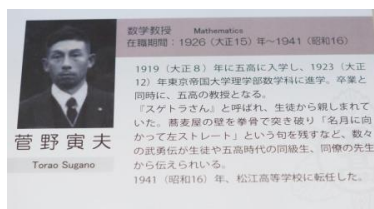
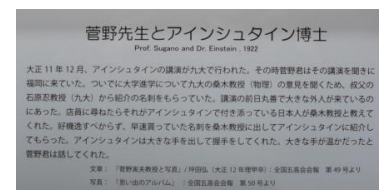


図9 旧制五高生 菅野寅夫の参加 (五高記念館にて)



その後、博士一行は車で県立物産陳列所に立ち寄り、県内の物産を視察しました。そこで、志賀島の金印の研究で有名な中山平次郎教授<sup>16)</sup>の斡旋で日本の古い書画や美術品を鑑賞しました。最後に、澤田牛麿福岡県知事<sup>18)</sup>を表敬訪問し、この日の公式行事は終わられました。その後、私的に三宅教授邸を訪問されました。

5. 澤田牛麿福岡県知事

図10(左)は1990年代にアメリカで発見された写真です。しかし、撮影場所や写っている人物がいままで特定できません<sup>2)</sup>。アインシュタイン夫妻と日本人の夫妻が写っています。日本訪問のときの写真だと思われますが、手がかりがそれ以外にありません。

今回の調査でようやくわかりました。上記の「澤田牛麿福岡県知事<sup>18)</sup>を表敬訪問し、この日の公式行事は終わられました。」のときの記念写真のようです。図10(右)は澤田知事の大阪市役所助役のときの写真です。はっきりとした確証はありませんが、よく似ているのではないかと思います。因みに、福岡県の知事秘書室にも澤田知事の写真の所在を問い合わせましたが、在任中の写真は保存されていないとのことでした。



図10 アインシュタイン夫妻と澤田知事夫妻 (左) と大阪市役所助役時代の澤田知事 (右)

澤田知事には次のようなエピソードが残っています<sup>17)</sup>。

「前任地の石川県では憲政派をギョウギョウと言わせたということから、相当の切れ者でもある。ドイツ語が堪能で、ヒマさえあれば原書に親しみ、シュンベルヒやワグナーを読みふけていたという。趣味は盆栽だった。」

## 6. おわりに

ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタイン博士と日本訪問途中の船の上で博士の病気を治した九州大学医学部教授三宅速 (はやり) 博士との友情にまつわる記録を情報検索で調査し新資料を明らかにした。また、検索キーの組み合わせで、ごみの量を減らすことが出来るが、検索キーを限定し過ぎると欲しい情報がヒットしなくなることを体験した<sup>7)</sup>。

## 参 考 文 献

- 1) 「ちょっと検索! 翻訳に役立つ Google 表現検索テクニック」, 安藤進, 丸善, 2007 年.
- 2) 「アインシュタイン 日本で相対論を語る」, A. Einstein 著, 杉元賢治翻訳著, 講談社, 2001 年.
- 3) 福岡市制施行 120 周年記念展 写真集「福岡近代絵巻」, 福岡市博物館, 2009 年.
- 4) 「福岡市番地入実査図 第 1 巻, 昭和 2 年」, 柴田治著発行, 春吉土地建物合名会社発行, 福岡県立図書館所蔵, 昭和 2 年 6 月.
- 5) 「福岡市縦横詳細地図 第 9 版 (昭和 13 年)」銀洋社発行, 福岡県立図書館所蔵.
- 6) 「九州大学第一外科百年史」, 黒木, 水元編集兼発行者, 九州大学医学部第一外科同門会, 2005 年. 同書 pp.163-204, 開講百周年記念特別講演「三宅速と博一そのプライベートゾーン」比企寿美子.
- 7) 「野球がおもしろくなる 変化球の大研究」, 姫野龍太郎著, 岩波アクティブ新書, 岩波書店, 2002 年.
- 8) 「稲穂を持つ鷺」<http://shinshizo.com/2012/12/>
- 9) 神谷杖治, private communication (2012.9.18-19).
- 10) 「アインシュタイン・ショック」金子務著, 河出書房新報, 1981 年.
- 11) 東京駅丸の内駅舎保存・復原工事 [http://www.kajima.co.jp/tech/tokyo\\_station/album/dome.html](http://www.kajima.co.jp/tech/tokyo_station/album/dome.html)
- 12) 秀村欣二: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 13) 「或る明治外科医のメモランダム」, 三宅速著, 三宅進編, 日本文教出版, 1998 年.
- 14) 「新版 大学生のためのレポート・論文術」, 小笠原喜康, 講談社現代新書, 2009 年.
- 15) 「Web 検索エンジン Google の謎」, 水野貴明, ソーテック社, 2004 年.
- 16) 中山平次郎: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 17) 「日本の歴代知事」 第 3 巻 (下), 歴代知事編纂会, 同会出版, 昭和 52 年.
- 18) 澤田牛麿: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 19) 「いまどきネットだけじゃ, 隣と同じ! 「調べる力」」, 関沢英彦, 明日香出版, 2010 年.
- 20) 第 97 回日本学士院賞受賞: 秀村選三氏:  
<http://www.japan-acad.go.jp/pdf/youshi/097/hidemura.pdf>
- 21) 「菅野先生とアインシュタイン」編集委員会, 全国五高会会報, 第 49 号. 「菅野寅夫

- 教授と写真」坪田浩著, 全国五高会会報, 第 50 号.
- 22) 「デジタル情報資源の検索 第 4 版」, 高鍬裕樹, 京都図書館情報学研究会, 2012 年.
- 23) 「なせば成る!」山形大学基盤教育院編, 山形大学出版会, 2010 年.